

ゆかたの文様

氏名：末次 祥子

学籍番号：0833012

指導教員：道明美保子

■研究の目的・意義

ゆかたは夏に着る最もラフな着物で、元々は湯上りに着る室内着であった^{1) 2)}。しかし最近ではゆかたの文様や素材の変化により、夏になるとお祭りや花火大会などでゆかたを見かけるようになった。また、普通の着物より簡単に着付けができ、価格も手頃なことから子供からお年寄りまで幅広く、特に若い世代や外国人に人気の夏の定番着物である。

浴衣は元々湯上りに着用していた着物であるから、涼し気に見えるように白地や藍地、紺地に秋の草花を染めた文様が一般的であった³⁾。しかし、1990年代に、デザイナーブランドが出回り、ゆかたブームに入ったことで、雑誌などでは、ゆかたが、湯を浴びた後に着る衣の意味の漢字『浴衣』ではなく、ひらがな『ゆかた』やローマ字『yukata』、遊ぶ衣『遊衣』という漢字に当てはめられるようになった⁴⁾。また、現在では和服ブームに伴い10代から20代対象の洋服ブランドもこぞってゆかたを制作・販売し始め、原色ベースのカラフルなプリントを施したものも多く出回っている⁴⁾。昔からある白地や紺地に古典文様のゆかたは「古典的」、今風の鮮やかな彩りのゆかたは「ブランドゆかた」と言われる。今日では、ゆかたは洋服でも和服でもない所在不明のカジュアルウェアとして、大胆に自由に色々な試みの行える衣服と位置づけられているようである。

本来ゆかたの文様には、それぞれその文様を使用することに込められる意味があった^{1) 5)}。しかし今日ではその意味を伴わず、和の雰囲気醸し出すというよりむしろ洋のイメージの強いものが多くみられる。

そこで本研究では、ゆかたの文様の推移を明らかにするとともに、現在のゆかたに対する意識調査から、ゆかたの文様について考察した。

さらに、文様をデザインし、染色してゆかたを制作した。

■研究の方法

1. 文献調査

2002年～2010年までの9年間のきもの専門誌「美しいキモノ」の夏号⁶⁾に記載されているゆかたの情報記事から、ゆかたの文様を分類した。

また、ゆかたの文様の先行研究⁷⁾と併せて、時代による変化を考察した。

1.1 分析対象

記載された婦人のゆかたの文様

1.2 分析方法

婦人のゆかたの文様を抽出し、複合文様、単独文様ともに、その中で使用されている文様を1種類につき1つと換算し、一般的な着物の文様の分類方法⁷⁾に従って、5種類に分類した。

- ① 植物文様・・・花、草、木などすべての植物、想像上の植物
- ② 動物文様・・・鳥獣類、魚介類、人間、想像上の動物
- ③ 生活・器物文様・・・人間の利用する器具、工具、道具、建築物、装飾具など
- ④ 自然・風景・天文文様・・・自然、風景、天文を描いたもの（写實的、絵画的図構成など）
- ⑤ 幾何学文様・・・直線および曲線により構成された文様

2. 意識調査

ゆかたに対する意識調査⁴⁾を参考にし、滋賀県を中心とした関西圏でアンケートを実施した。

3. ゆかたの制作

3.1 文様のデザイン

- 1) 羽
- 2) 蛇柄だが、遠くから見たら蝶

3.2 型紙を彫る

3.3 防染糊置き

3.4 建染染料による染色

3.5 バインダーを用い、顔料によるプリント

3.6 縫製

■結果及び考察

1. 文献調査

「美しいキモノ」の夏号に記載されているゆかたの情報記事からゆかたの文様を、植物文様、動物文様、生活・器物文様、自然・風景・天文文様、幾何学文様に分類した。植物文様は多様なため、花・草花・木葉・食物の4種類にさらに分類し表記した。

結果を図1に示した。植物文様が半分以上を占め、その中でも花文様が一番多い結果となった。花文様だけ他の文様の数を上回っている。植物文様の4種類もそれぞれ一つと考えるならば、出現文様は多い順から、花>幾何学>草木>木葉>自然・風景・天文>動物>生活・器物>食物となる。

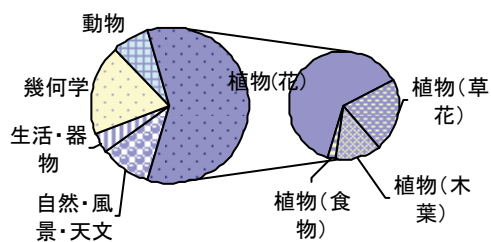


図1 文様の数と割合 (2002-2010)

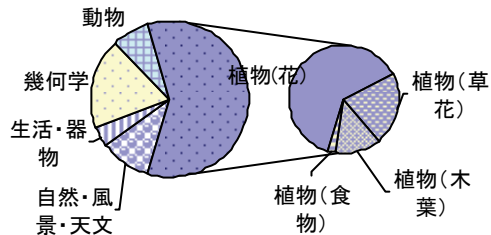


図2 文様の数と割合 (1950-2001)

先行研究⁷⁾の文様の数と割合を図2に示した。先行研究は、複合文様は含めず単体文様だけを調査対象とし、分類したものであるが、今回得たデータのように植物文様が半分以上を占め、花文様が一番多いことが明らかである。

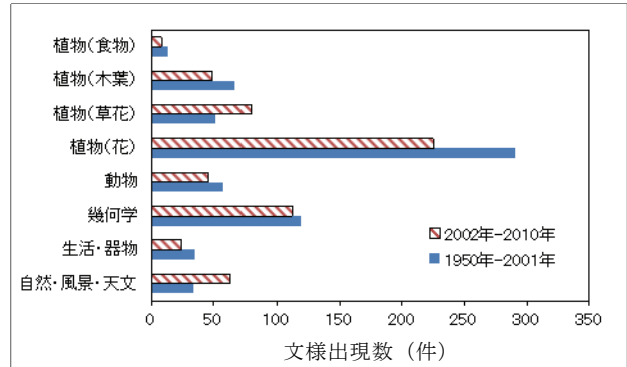


図3 文様出現数の変化

文様出現数の先行データ(1950年～2001年)と今回のデータ(2002年～2010年)を図3に示した。花文様は両者共に多かった。

ほとんどの文様が同じような出現数となっているが、自然・風景・天文模様は倍近い数となった。これは、今回の分類は複合文様では流水や波の文様がさまざまな文様と共に用いられているケースが多かったからである。生活・器物文様は、昔ながらの生活器物でなく、飛行機などの現代的な文様が出現していたが、減少していた。

2. 意識調査

200部用意したアンケート用紙は171部を回収したが、10部は未回答であった。

2-1. ゆかたを着たいと思っているか

男性64人のうち34人、女性は101人のうち91人がゆかたを着たいと回答した。女性は着たいという人が89%を占めたが男性は53%であった。以上の結果から、着用意思は女性のほうが強いことが明らかとなった。

2-2. 女性のアンケート結果

2-2-1. 着てみたい文様

植物文様の花文様の椿が最も多く、次いで花文様の桜となった。その次に、動物文様の蝶が着てみたい文様であった。植物(椿)>

植物（桜）>動物（蝶）この3つが他に比し多くの支持を得た。また、レースに12人着用願望を見出していることから、カジュアルウェアとしてゆかたが広まり洋風のイメージを持ちつつあることが明らかとなった。

2-2-2.着てみたいゆかたの地・文様の色

地の色は青色、黒色、紫色、白色、ピンク色が人気色であった。青、白はもともとゆかたの地の色として使われていたので浴衣のイメージ色として浸透している。また、黒色や紫色は、青色の藍、紺色などの地の色が濃い暗い色のもので文様に明るい色で映えさせるといった考えがあるのではないかと考えられる。ピンク色は、他の色と違い奇抜的な色合いであるが、洋装イメージやかわいらしい女子のイメージから好まれるのだろう。

文様の色については、赤色、白色、ピンク色、黄色と明るい色が人気である。やはり、地の色を暗いものにして、文様を明るい色にすることで、明度彩度の違いによってはっきりとした文様を浮かび上がらせることができるためと考えられる。

2-2-3.ゆかたの所持枚数

95人中80人が持っていると答えた。

1枚所持している人は全体の47%、次いで2枚所持している人が34%で、合計81%という大半は1~2枚の所持であった。

2-2-4.所持ゆかたの文様

圧倒的に所持されているゆかたの文様として多いものは植物文様の花文様であった。次に、動物文様が多く見られ、月や水玉、レースは着てみたい文様であったが実際に持っているのは1人であった。

2-2-5.所持ゆかたの地・文様の色

所持するゆかたの地色は青>黒>白の順であり、昔から使われている青が地の色として多く用いられていた。

以上の結果から、所持するゆかたの地の色は着てみたい浴衣の地の色と同じで、本来ゆかたとしてイメージが確立されているものに青と白があり、黒色の地は、紺の派生であると考えられた。

文様の色は、ピンク色が一番多かった。ピ

ンク>赤>黄>白であり、文様は明度の高いものが利用されることが多い。浴衣に用いられる文様の多くが花であることから、花の色として多い赤や黄、白が多いのであろう。このように考えると、文様を明度の高い花を用いるので文様を目立たせるために地の色の明度が下がり、暗い色になっていると考えられる。

2-2-6.ゆかたの希望購入価格

購入希望価格は、5000~10000円が40と最も高く全体の43%であった。次に、3000~5000円、10000~30000円となる。

前年のゆかたは安く手に入るのも最新でなくても気に入るものであればいいといった感覚がある。

2-2-7.ゆかたの希望所持枚数

2,3枚でいいという回答が61%を占め、1枚でいい人が31%を占めた。ゆかたを着たくないという回答をした10人中2人は、所持も特に必要はないと回答した。

2-2-8.ゆかたの希望購入頻度

4,5年は買わないのが52%を占め、2,3年毎が34%であり毎年買うものという感覚はないようである。

2-2-8.ゆかたを選ぶ際重視する感覚

ゆかたを選ぶときに重視する感覚としては、和服感覚として購入を考えるのが80%とほとんどを占める。洋服感覚との回答は、4人もあったことから、ゆかたが和服としてだけでなくカジュアルウェアとしても浸透してきていることがうかがえる。

2-2-9.ゆかた文様のデザイン好み

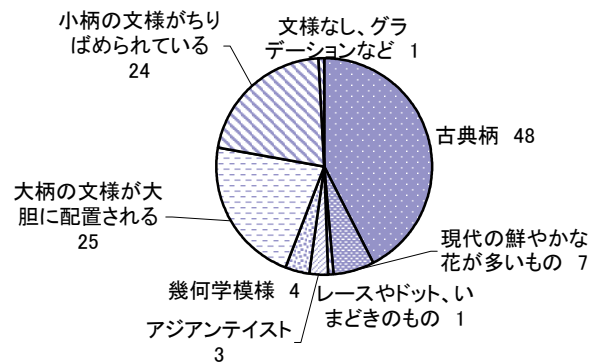


図4 文様デザインの好み

古典柄が42%を占め、大柄の文様が大胆に

配置されるものと小柄の文様がちりばめられているものは22%、21%と同じような値を占めた。

好まれる文様は、古典柄>大柄文様>小柄文様>鮮やかな花の多いものであった。

レースやドット、アジアンテイストや幾何学模様、文様なしもあったが微々たるものである。文様は大柄であるか小柄であるか関係はあまりなく古典柄を選ぶといった傾向がある。また、見てみなくてはわからない。といった意見もあった。

2-2-10.ゆかたを選ぶ4要素

文様、素材、色、値段の4要素を取り上げそれぞれに順位をつけてもらった。

色、文様は、1, 2位に80~90%選ばれ、ゆかたを選ぶのには色と文様に注目が集中し、次に値段がくる。素材は、4位が最も多く、4要素の中では優先順位が低い。色、文様はそれぞれ1, 2位の獲得数がほぼ同じであった。結果をまとめると、色>文様>値段>素材の順であった。文様のほうが重要かと想像していたが、少しの差ではあるが色が重要とされていた。素材は4位に選ぶ人が多かったが、1位に選ぶ人は4人いた。

2-3.男性のアンケート結果

66人中7名だけ浴衣を所持していた。

2-3-1.ゆかたを選ぶ4要素

女性と違い、4要素の順位の結果は、4位に文様が最も多く、女性の4位であった素材が1位となった。結果は素材>色>値段>文様の順であった。

文様がゆかたを選ぶ要素として順位が高くないのは、女性のゆかたのようにたくさんの文様が用いられ華やかなものが多いわけではなく、幾何学模様などのあまり文様要素として表立ってでていないものではないからではなかろうか。文様に頼らない素材感を重要としたゆかたスタイルを見出していると考えられる。

3.ゆかたの制作

型染めの手法で、ゆかたの制作を行った。



■まとめ

●文献調査で検出されたゆかたの文様は、花>幾何学>草木>木葉>自然・風景・天文>動物>生活・器物>食物であった。

花文様…菊>桜>桔梗>撫子>朝顔

動物文様…とんぼ>蝶>千鳥>金魚

●意識調査で着てみたい文様は、植物(椿)>植物(桜)>動物(蝶)の順となった。

●所持ゆかたの文様は、花(その他)>花(桜)>花(洋花)>動物(蝶)であった。

花、動物の文献での検出数をもっとも多かった菊、とんぼが一番ではなかったが、2位にあった桜、蝶は所持ゆかたの文様、着てみたい文様共に入っていることから市場と希望が一致していることがわかった。

■引用文献

- 『浴衣|日本文化いろは事典』
http://iroha-japan.net/iroha/B01_clothes/09_yukata.html (2011.7.15)
- 東谷市子,岸令子,金谷喜子: ゆかたと帯の調和, 大妻女子大学紀要・家政系-34号, 105-111 (1998)
- 『ゆかたデザイン工房 (有)ヨコイ』
<http://www.shizutan.com/Establishments/detail.asp?rid=2827> (2011.8.10)
- 城真理子・内田恵美子・幡野暁子: 和服文化の伝承媒体としてのゆかたを考える, 繊維製品消費科学, 41(4), 412-422(2000)
- 『浴衣の柄行き』
http://www.yukatamusubi.com/contents_11.html (2011.2.16)
- きもの専門誌「美しいキモノ」の夏号 出版社: ハースト婦人画報社(2002-2010)
- 寺田恭子・内山道子・知の恵子・渡邊芳道: 浴衣の文様に関する研究, 東京家政大学博物館紀要, 第7集 57-69 (2002)